

テーマ

鳥取砂丘の動物のインベントリー作成と生活史・群集の調査

発表者

鶴崎展巨 鳥取大学地域学部 教授

概要

インベントリー（動植物の種目録や分布図）作成は地域の生物多様性の研究・保全・利用の基礎としてきわめて重要である。鳥取砂丘には海岸砂丘特有の興味深い動植物（レッドデータブック掲載種を多数含む）がみられるが、そのインベントリーははなはだ不十分で、希少種の保全はもとより、鳥取砂丘の自然観察や観光にもほとんど活かされていない。この問題の解消をめざし、数年前から鳥取砂丘および山陰海岸の昆虫相・クモ相の解明を進めている。昨年はおもにハチ類を中心に調査を進めた。

『目的』 鳥取砂丘と山陰海岸の昆虫・クモなどの正確な同定にもとづく種リストの作成，分布図作成，生活史情報の蓄積と，鳥取砂丘の動物の同定の手引きや観察のためのテキスト作成。

『方法・手法』 文献記録から生息種の予備的リストを作成した（佐藤隆士・鶴崎展巨，2010. 鳥取砂丘の昆虫相（予報）. 鳥取県立博物館研究報告, 47: 45-81）。また，現地で採集をおこない，分類学的検討を加えてリスト作成をおこなう，生息確認地点は携帯用 GPS で緯度経度を記録し，精度の高い分布図を作成する。



図 1. 鳥取砂丘での調査風景。
環境省と文化庁の許可を得て採集。



図 2. 鳥取砂丘で見られるハチ類の代表種

『結果』

2010年4月から11月まで月1回の定期採集とそれ以外の補助的な不定期採集（図1）により膜翅目を中心とする昆虫類の生息情報を収集した。次の7種を鳥取砂丘から始めて記録した：ウスイロミズギワカメムシ，ヒメアメンボ，ホソトビミズギワゴミムシ，キボシカミキリ，マルモンツチスガリ（図2），ハイイロクモバチ，ニホンミツバチ。また鳥取砂丘から最近の記録がなかったニッポンハナダカバチ（環境省 RDB 準絶滅危惧，鳥取県 RDB 絶滅危惧 II 類）とコウゲキヌゲハキリバチ（鳥取県 RDB 準絶滅危惧）の生息を確認した。各種について砂丘内の分布図と月別の出現状況をまとめた。図3はその一例である。

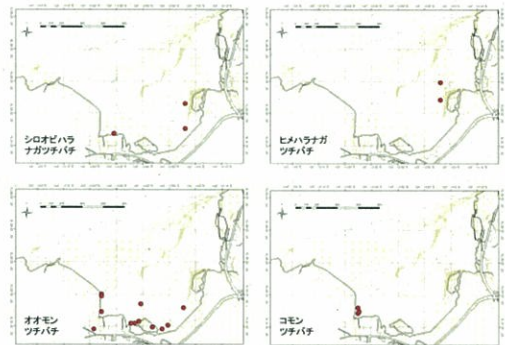


図 3. ツチバチ類 4 種の鳥取砂丘における分布

【ライセンス情報】 発明の名称:

発明者:

【来場者へのメッセージ】

希少野生動物の保管理，鳥取砂丘での環境学習に活かされるとともに，砂丘や山陰海岸の文化財・観光資源としての価値の付加・増大にも役立つものと考えています。学習用の手引きは山陰海岸ジオパーク野外学習ハンドブックの HP (<http://www.rs.tottori-u.ac.jp/geopark-handbook/index.html>) から PDF ファイルとしてダウンロードいただけますので，ご利用ください。

連絡先: 鳥取大学地域学部地域環境学科 教授 鶴崎展巨

鳥取市湖山町南 4-101 TEL. 0857-31-5110 E-mail: ntsuru@rstu.jp

分野

生物多様性，動物分類学，群集生態学

プレゼンタイム

有 (無)